

賀陽宮邸跡

ここから烏丸通までの区画が、伏見宮邦家の四男である朝彦親王の住居として使われていました。親王は京都の天台宗青蓮院の門主でしたが、孝明天皇から大きな信頼を寄せられて仏門を離れ、中川宮を名乗り、天皇の補佐役としての役割を果たすようになります。

この場所にはカヤの巨木が生えていたため、親王は賀陽宮という呼び名でも呼ばれるようになりました。親王は朝廷と幕府の融和を掲げていたため、尊王攘夷派からは敵視されていました。その結果、1868年の明治維新後、朝彦親王は広島に追放されてしまいます。天皇の補佐役としてのその功績を顕彰して、大きな石碑「胎範碑」が建てられました。この石碑には、朝彦親王の四男である梨本宮親王の名前も刻まれています。